

2024年3月期 第2四半期決算説明資料

2023年11月2日

1. サマリー情報

- (1) サマリー

2. 2024年3月期 第2四半期決算

- (1) 業績
- (2) セグメント別 売上高・営業利益
- (3) セグメント別 売上高・営業利益 (対 前年同期 増減・要因分析)
- (4) セグメント別 事業概況
- (5) 連結貸借対照表
- (6) 連結キャッシュ・フロー計算書

3. 2024年3月期 業績予想

- (1) 業績予想/EBITDA増減分析
- (2) セグメント別 売上高・営業利益
- (3) セグメント別 事業計画
- (4) 通期業績予想達成、今後の成長に向けたアクション

4. 株主還元

- (1) 株主還元

2024年3月期第2四半期 業績

売上高 2,710億円、営業利益 266億円、EBITDA 419億円

- 電子デバイス市場の需要低迷や自動車部品メーカーの在庫調整の影響を受けたものの、為替が円安で推移したことなどにより、売上高は予想並み
- 為替・原燃料価格が予想前提より円安・低下傾向で推移したことに加え、需要が好調なアセテート・トウの増産や各事業における販売数量リカバリー対応の実施、コストダウンの徹底により営業利益・EBITDAは予想を上回った（営業利益+56億円、EBITDA+54億円）

2024年3月期 業績予想

売上高 5,620億円、営業利益 610億円、EBITDA 970億円、ROIC 6.3%、EPS 188.84円

- エンジニアリングプラスチックなどの販売数量は回復傾向にあるものの、上期の販売数量下振れに加え、当初3Qからの回復を想定していたディスプレイや半導体市場の回復が遅れると想定し、売上高を下方修正
- 為替や原燃料価格前提見直し、各事業の収益改善アクションの織り込みにより、営業利益・EBITDAを上方修正（営業利益+80億円、EBITDA+80億円）
- セイフティの生産地統廃合、各事業でのシェア拡大や新規顧客開拓を確実に推し進める

株主還元

- 中間配当は、対前回予想3円増配、対前年度7円増配の 25円/株
- 期末配当予想は、対前回予想3円増配、対前年度5円増配の 25円/株（通期配当予想：50円/株）
- 150億円、1,300万株の自己株式取得を決定（取得期間：2023年11月～2024年3月）

2024年3月期 第2四半期業績



	2023/3 2Q実績	2024/3 2Q予想	2024/3 2Q実績	対前年同期		対予想	
				増減	増減率	増減	増減率
売上高	2,662	2,710	2,710	+48	+1.8%	+0	+0.0%
営業利益	260	210	266	+6	+2.2%	+56	+26.7%
経常利益	302	215	307	+5	+1.5%	+92	+42.8%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	222	150	298	+75	+34.0%	+148	+98.3%
為替レート USD/JPY	134	125	141				
EBITDA	403	365	419				

単位：億円

<対前年同期>

- 自動車部品市場の在庫調整や、電子デバイス市場の需要低迷の影響を受けるも、自動車生産の回復やアセテート・トウの販売数量増、価格是正、為替影響などにより、売上高は増加
- 電子デバイス用途などでの販売数量減少、セイフティの北米拠点閉鎖に伴う費用やエンジニアリングプラスチックのマレーシア拠点大型定期修繕による費用増加があったものの、アセテート・トウの販売価格是正、原燃料価格の低下、為替影響、コストダウンの積み増しなどにより営業利益・経常利益・EBITDAは増加
- 政策保有株式の売却により、親会社株主に帰属する四半期純利益は増益

<対予想>

- 電子デバイス市場の需要低迷や自動車部品メーカーの在庫調整の影響により販売数量は未達となるも、各製品において新規市場開拓、新規用途開拓など数量リカバリー対応を実施。為替影響もあり、売上高は予想並み
- 為替・原燃料価格が予想前提より円安・低下傾向で推移。各事業でコストダウンの積み上げなど収益改善アクションを実施し、営業利益・EBITDAは予想を上回った

セグメント別 売上高・営業利益

単位：億円	売上高						
	2023/3 2Q実績	2024/3 2Q予想	2024/3 2Q実績	対前年同期		対予想	
				増減	増減率	増減	増減率
メディカル・ヘルスケア	80	65	69	△ 12	△14.4%	+4	+5.8%
スマート	162	175	147	△ 15	△9.2%	△ 28	△16.1%
セイフティ	397	425	471	+74	+18.6%	+46	+10.9%
マテリアル	752	885	911	+159	+21.2%	+26	+3.0%
エンジニアリングプラスチック	1,236	1,135	1,087	△ 149	△12.0%	△ 48	△4.2%
その他事業	35	25	25	△ 10	△29.2%	△ 0	△0.4%
合 計	2,662	2,710	2,710	+48	+1.8%	+0	+0.0%

単位：億円	営業利益						
	2023/3 2Q実績	2024/3 2Q予想	2024/3 2Q実績	対前年同期		対予想	
				増減	増減率	増減	増減率
メディカル・ヘルスケア	7	2	5	△ 2	△31.5%	+3	+140.5%
スマート	4	0	△ 11	△ 15	-	△ 11	-
セイフティ	△ 0	10	△ 1	△ 1	-	△ 11	-
マテリアル	104	145	211	+107	+103.3%	+66	+45.6%
エンジニアリングプラスチック	145	53	61	△ 83	△57.6%	+8	+15.6%
その他事業	1	0	1	+0	+3.4%	+1	-
合 計	260	210	266	+6	+2.2%	+56	+26.7%

※ 比較のため、2023年3月期実績は、以下のセグメント変更を反映

・化粧品原料1,3-BG（メディカル・ヘルスケア→マテリアル） ・新規投与デバイス研究開発機能（セイフティ→メディカル・ヘルスケア）

セグメント別 売上高・営業利益（対 前年同期 増減・要因分析）

単位：億円	売上高						
	2023/3 2Q実績	2024/3 2Q実績	増減	増減率	分析		
					数量差	単価差	単価差の内 為替影響
メディカル・ヘルスケア	80	69	△ 12	△ 14.4%	△ 15	+3	+2
スマート	162	147	△ 15	△ 9.2%	△ 18	+4	+2
セイフティ	397	471	+74	+18.6%	+57	+17	+11
マテリアル	752	911	+159	+21.2%	△ 33	+192	+38
エンジニアリングプラスチック	1,236	1,087	△ 149	△ 12.0%	△ 136	△ 13	+30
その他事業	35	25	△ 10	△ 29.2%	△ 10	-	-
合計	2,662	2,710	+48	+1.8%	△ 155	+203	+83

単位：億円	営業利益							
	2023/3 2Q実績	2024/3 2Q実績	増減	増減率	分析			
					数量影響	価格影響	その他	営業利益の内 為替影響
メディカル・ヘルスケア	7	5	△ 2	△ 31.5%	+2	+2	△ 6	+1
スマート	4	△ 11	△ 15	-	△ 4	+0	△ 11	△ 0
セイフティ	△ 0	△ 1	△ 1	-	+21	△ 3	△ 19	+0
マテリアル	104	211	+107	+103.3%	△ 12	+178	△ 58	+20
エンジニアリングプラスチック	145	61	△ 83	△ 57.6%	△ 68	△ 2	△ 14	+8
その他事業	1	1	+0	+3.4%	+0	-	-	-
合計	260	266	+6	+2.2%	△ 61	+175	△ 109	+29

※ 比較のため、2023年3月期実績は、以下のセグメント変更を反映

・化粧品原料1,3-BG（メディカル・ヘルスケア→マテリアル） ・新規投与デバイス研究開発機能（セイフティ→メディカル・ヘルスケア）

セグメント別 営業利益（対 前年同期 増減・要因分析）

		営業利益		
単位：億円		分析	増減	増減要因
メディカル・ヘルスケア	数量影響		+ 2	+ 化粧品原料や健康食品素材、キラル充填剤の販売数量増加
	価格影響		+ 2	+ 為替影響
	その他		△ 6	△ マーケティング費用など経費増加
スマート	数量影響		△ 4	△ 機能フィルムや電子材料向け溶剤、フォトレジスト材料の販売数量減少
	価格影響		+ 0	+ パルプなど原材料価格上昇に伴い販売価格を是正
	その他		△ 11	△ 電子材料向け溶剤増産プラント稼働に伴う償却費など経費増加、在庫影響
セイフティ	数量影響		+ 21	+ インフレータの販売数量増加、操業度上昇
	価格影響		△ 3	△ 販売価格是正を進めるも原材料価格上昇が先行
	その他		△ 19	△ 生産地統廃合に伴う費用や生産量増加に伴う費用など経費増加
マテリアル	数量影響		△ 12	△ 酢酸誘導体や過酢酸誘導体の販売数量減少
	価格影響		+ 178	+ アセテート・トウの販売価格是正、為替影響
	その他		△ 58	△ 在庫影響
エンジニアリングプラスチック	数量影響		△ 68	△ 主に第1四半期の販売数量減少
	価格影響		△ 2	△ メタノールなど原料価格低下に伴う販売価格低下
	その他		△ 14	△ マレーシア拠点の大型定期修繕費用など経費増加、在庫影響

※ 比較のため、2023年3月期実績は、以下のセグメント変更を反映

・化粧品原料1,3-BG（メディカル・ヘルスケア→マテリアル）・新規投与デバイス研究開発機能（セイフティ→メディカル・ヘルスケア）

セグメント別 事業概況（2024年3月期 上期）

セグメント	主要市場	市場環境	当社の状況（対前年同期）・取り組み
メディカル・ヘルスケア	ライフサイエンス	キラル関連製品の需要は海外市場を中心に堅調に推移	キラル関連製品は、充填剤の販売数量が増加 前年同期にロックダウンの影響を受けた中国拠点で受託分離案件が増加。インド拠点では合成サービスおよび分析標品在庫販売が好調
	コスメヘルスケア	コスメの中国市場の回復は想定よりも遅れているが、国内市場はコスメ、健康食品ともにインバウンド増加などの回復傾向が継続	インバウンド増加の影響により、コスメの販売数量は増加 健康食品は注力する腸内代謝物を中心に好調
スマート	電子デバイス半導体	液晶パネルは、最終製品の需要は期初想定を下回るものの、在庫調整が進み、需要は回復傾向 半導体市場は需要低迷が継続	TAC※は、パネル生産の回復に加え、海外顧客向け拡販によるシェア拡大により販売数量が増加。機能フィルムは特殊モニター用フィルムの基材変更対応遅れや欧米TV市場の需要低下の影響により販売数量が減少 電子材料向け溶剤・フォトレジスト材料は、半導体用途、特にメモリー用途の販売数量が減少。2Qより電子材料向け溶剤の増産プラントが稼働。シェア拡大・新規顧客開拓を強化
セイフティ	自動車	自動車生産台数は、中国ロックダウンの影響を大きく受けた前年同期と比較して増加	自動車生産台数増加に加え、新規獲得プログラムの販売開始もあり、インフレータの販売数量は増加 拠点閉鎖に伴う一時的な費用が発生。生産地統廃合は10月の完了に向けて計画通り進捗

※TAC（Tri-acetyl cellulose）： 液晶表示フィルム向け三酢酸セルロース

セグメント別 事業概況（2024年3月期 上期）

セグメント	主要市場	市場環境	当社の状況（対前年同期）・取り組み
マテリアル	樹脂・インク 用原料 塗料用溶剤	PTA・VAMや液晶ディスプレイ・電子材料用途の需要は、前年度からの低迷が継続。酢酸市況も前年度から引き続き軟調に推移	酢酸の販売価格は酢酸市況低下の影響により低下。酢酸誘導体の販売価格も弱含みで推移。酢酸誘導体は需要低迷の影響を受け販売数量が減少。 需要低迷を受けて、酢酸のスポット販売や酢酸・酢酸誘導体の需要が堅調な地域・市場への拡販を実施
	繊維 フィルター	世界のたばこ生産本数は前年度から横這いを見込むも、加熱式たばこ用の需要増からアセテート・トウ需要は堅調に推移	アセテート・トウは、投資なき増産により供給能力を拡大し、加熱式たばこ向けなど需要増加に対応して販売数量が増加 需要増加に伴う販売価格是正により、販売価格は上昇
	電材・ コーティング 用原料	カプロラクトン誘導体は、ウレタン既存用途の需要が低下。エポキシ化合物は、電子基板・液晶ディスプレイ用途の需要回復が想定を下回る	カプロラクトン誘導体は中国向け需要低迷により販売数量が減少 エポキシ化合物は市場の回復遅れにより販売数量が減少 カプロラクトン誘導体は自動車向けPPF※、エポキシ化合物はOLED封止材やFRP用途などそれぞれ高付加価値領域への拡販アクションを推進
	コスメ	コスメは、中国市場の回復は想定よりも遅れているものの、国内市場はインバウンドの影響もあり回復傾向が継続。	国内インバウンドの需要増加により1,3-BGの販売数量は増加
エンジニアリング プラスチック	自動車部品	自動車生産台数は前年同期を上回ったが、自動車部品・素材需要は、顧客の在庫調整が2Q初めまで継続	顧客の在庫調整の終了に伴い、2Qより自動車部品用途の需要が回復したものの、1Qまでの需要低迷や電子デバイス用途の需要減速の影響により販売数量は減少
	電機・電子 ・精密機器	スマートフォンやパソコンなどの電子デバイス、家電、サーバーなど通信インフラ設備関連の生産は前年度からの低迷が継続。	マレーシア拠点の大型定期修繕を実施（前年度は実施なし） ローエンドマーケットへの販売拡大などの販売数量リカバリー策を実施するとともに、徹底したコストダウンを推進

※PPF（Paint Protection Film）： 塗料保護フィルム

連結貸借対照表

		2023年 3月末	2023年 9月末	増減
単位：億円				
流動資産		4,066	4,180	+114
	現預金及び有価証券	938	976	+38
	受取手形及び売掛金	1,015	1,098	+83
	棚卸資産	1,772	1,833	+61
	その他	341	273	△ 68
固定資産		3,590	3,906	+317
	有形固定資産	2,561	2,828	+267
	無形固定資産	112	114	+2
	投資その他資産	917	964	+47
資産合計		7,656	8,086	+430
負債		4,552	4,534	△ 18
	有利子負債	3,220	3,043	△ 177
	その他	1,332	1,491	+159
純資産		3,104	3,552	+448
負債純資産 合計		7,656	8,086	+430

- 総資産増加額430億円のうち、322億円が為替影響
- 有形固定資産増加の主な要因は、ポリプラスチックグループのPOM・LCP・COC製造能力増強投資
- 政策保有株式の一部を売却。今後も非事業資産の処分をはじめアセットライトの取り組みを推進
- 手元流動性の改善に伴い、有利子負債を返済

単位：億円

		2023/3 2Q	2024/3 2Q	増減
	営業キャッシュ・フロー	78	492	+414
	投資キャッシュ・フロー	△ 172	△ 268	△96
フリーキャッシュフロー		△ 94	224	+319
財務キャッシュ・フロー		12	△ 281	△293
その他		59	51	△8
現金及び現金同等物の増減額		△ 24	△ 6	+18
現金及び現金同等物の四半期末残高		856	929	+73

- 営業キャッシュ・フロー：+492億円
前年同期は円安や原燃料価格上昇、戦略的な在庫積み増しによる棚卸資産の増加が影響。今期は増益の影響もあり対前年同期で大きく増加
- 投資キャッシュ・フロー：△268億円
積極的な設備投資を進めながら、政策保有株式売却も実施
- フリーキャッシュフローは+224億円となり、対前年同期で319億円改善
- 財務キャッシュ・フロー：△281億円
手元流動性の改善に伴い、有利子負債を返済

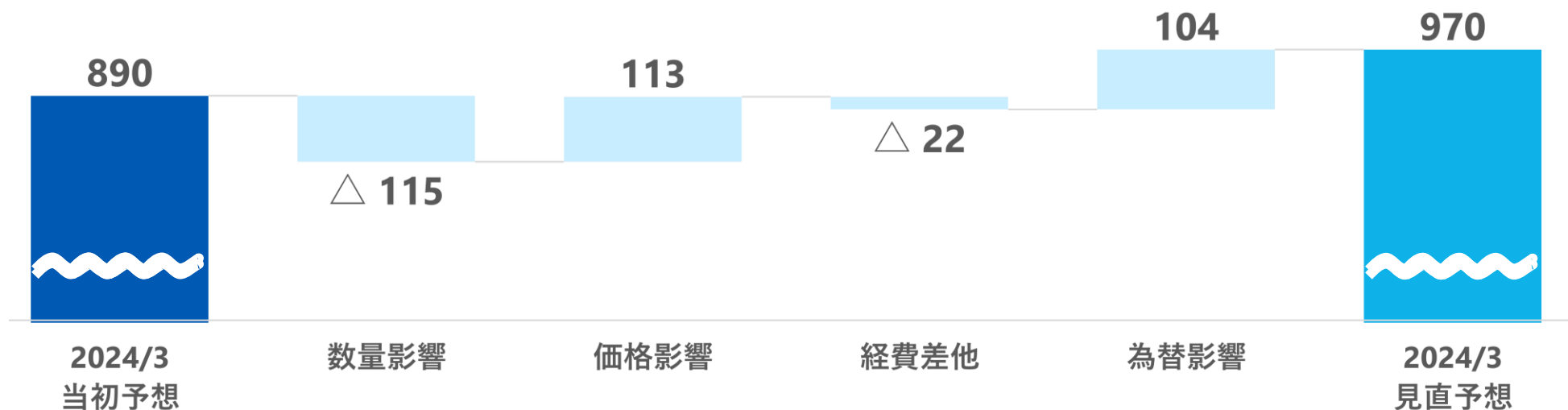
2024年3月期 業績予想



単位：億円	2023/3 実績	2024/3 当初予想	2024/3 見直予想	対前年度		対当初予想	
				増減	増減率	増減	増減率
売上高	5,380	5,720	5,620	+240	+4.5%	△ 100	△1.7%
営業利益	475	530	610	+135	+28.4%	+80	+15.1%
経常利益	520	550	655	+135	+25.9%	+105	+19.1%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	407	440	540	+133	+32.7%	+100	+22.7%
為替レート USD/JPY	136	125	138				

	2023/3 実績	2024/3 当初予想	2024/3 見直予想
EBITDA	791	890	970
ROE	14.3%	14.5%	17.5%
ROIC	5.3%	5.6%	6.3%
ROA	5.6%	5.7%	6.9%
EPS (円)	138.87	154.04	188.84

EBITDA増減分析



- 足元の業績動向、製品および原料市況、為替動向を踏まえて通期業績予想を見直し
- 売上高は当初予想を若干下回るも、営業利益・EBITDAは大幅な増加を計画
- 電子デバイス用途など多くの製品需要の低迷継続が見込まれるなかでも拡販やコストダウンに取り組み、業績予想を達成するとともに、中期戦略達成とその後の成長に向けて、既存製品のシェア拡大や新規顧客開拓、新製品開発、品質向上・コストダウンにつながる製法改善に取り組み、セイフティの生産地統廃合も完了させる
- 営業利益の増加に加え、さらなる非事業用資産処分などにより、ROIC、EPSの上昇を見込む

<EBITDA増減分析>

- 製品需要は回復傾向にあるものの、上期の販売数量未達に加えて、当初3Qからの回復を想定していたディスプレイや半導体市場はさらに回復が遅れると想定しており、数量影響はマイナス
- 原燃料価格が当初想定よりも低い水準で推移することが見込まれ、また、販売価格維持にも取り組むことにより価格影響はプラス
- 在庫影響やセイフティの北米拠点閉鎖に伴う一時的な費用増などにより経費差他はマイナスを見込むも、外部支払費用の社内取り込みなどによりコストダウンを積み増し
- 為替レート (USD/JPY) 前提 当初予想：125円 ⇒ 見直予想：138円

セグメント別 売上高・営業利益

単位：億円	売上高						
	2023/3 実績	2024/3 当初予想	2024/3 見直予想	対前年度		対当初予想	
				増減	増減率	増減	増減率
メディカル・ヘルスケア	166	135	140	△ 26	△ 15.6%	+5	+3.7%
スマート	296	400	330	+34	+11.5%	△ 70	△ 17.5%
セイフティ	840	900	960	+120	+14.3%	+60	+6.7%
マテリアル	1,608	1,780	1,805	+198	+12.3%	+25	+1.4%
エンジニアリングプラスチック	2,381	2,450	2,330	△ 51	△ 2.1%	△ 120	△ 4.9%
その他事業	91	55	55	△ 36	△ 39.2%	-	-
合計	5,380	5,720	5,620	+240	+4.5%	△ 100	△ 1.7%

単位：億円	営業利益						
	2023/3 実績	2024/3 当初予想	2024/3 見直予想	対前年度		対当初予想	
				増減	増減率	増減	増減率
メディカル・ヘルスケア	13	7	10	△ 3	△ 20.6%	+3	+42.9%
スマート	△ 6	5	△ 11	△ 5	-	△ 16	-
セイフティ	5	80	43	+38	+731.7%	△ 37	△ 46.3%
マテリアル	207	250	375	+168	+81.0%	+125	+50.0%
エンジニアリングプラスチック	253	185	190	△ 63	△ 24.9%	+5	+2.7%
その他事業	3	3	3	△ 0	△ 13.5%	-	-
合計	475	530	610	+135	+28.4%	+80	+15.1%

EBITDA	
2023/3 実績	2024/3 見直予想
29	21
21	25
71	114
320	530
340	272
9	8
791	970

※ 比較のため、2023年3月期実績は、以下のセグメント変更を反映

・化粧品原料1,3-BG（メディカル・ヘルスケア→マテリアル） ・新規投与デバイス研究開発機能（セイフティ→メディカル・ヘルスケア）

セグメント別 事業計画（2024年3月期 下期）

セグメント	主要市場	市場環境	当社の計画（対当初計画）
メディカル・ヘルスケア	ライフサイエンス	キラル関連製品は海外市場を中心に堅調な需要が継続する見込み	キラル関連製品は、堅調なキラルカラム・充填剤の販売を受け、当初計画を上回る販売を見込む 拡大市場であるインドでの合成サービス・分析標品在庫販売の堅調な需要を確実に取り込む
	コスメヘルスケア	コスメの国内市場はインバウンド増加の影響もあり、回復傾向が継続。中国市場の回復は期初の想定よりも遅れる見通し 健康食品の国内市場はインバウンド増加の影響もあり、堅調に推移する見通し	コスメは、中国市場は低調であるものの、国内インバウンドによる需要回復により、販売数量は当初計画を上回る 健康食品は、インバウンド増加により引き続き好調に推移 コスメ、健康食品ともに拡販とコストダウンにより収益基盤を強化 健康食品は10月に通販事業を譲渡。得意とする天然物由来の機能性食品素材の開発と製造に経営資源を集中
スマート	電子デバイス半導体	液晶パネル用途の需要は回復傾向にあるが、パネルメーカーの稼働率は期初の想定を下回り、本格的な回復は4Q以降を見込む（当初計画では3Qからの回復を想定） 半導体市場は需要低迷が継続し、来期以降の回復を見込む（当初計画では3Qからの回復を想定）	TAC※、電子材料向け溶剤、フォトレジスト材料は、ともに需要回復の遅れを受け、販売数量は対当初計画で減少 TACはさらなるシェアの拡大と、製法改善による品質の向上や木材パルプ原料の使用による競争力強化、在庫削減を推進 電子材料向け溶剤は増産に伴い、国内外への拡販加速やその他の用途開拓で販売数量を拡大。フォトレジスト材料はEUV用などの先端材料での採用拡大やFPD用途の中国市場での拡販に取り組む
セイフティ	自動車	グローバルの自動車生産台数は期初の想定を上回る見通しだが、中国市場における日系自動車メーカーの伸び悩みが見られる	インフレータ販売数量は、中国市場における日系自動車メーカーのEV対応遅れが影響し販売が減少するも、全体では当初計画並みを見込む コストダウンの徹底、生産地統廃合の計画通りの完遂による収益性改善に努めるとともに、新規プログラムの獲得を進める

※TAC（Tri-acetyl cellulose）： 液晶表示フィルム向け三酢酸セルロース

セグメント別 事業計画（2024年3月期 下期）

セグメント	主要市場	市場環境	当社の計画（対当初計画）
マテリアル	樹脂・インク 用原料 塗料用溶剤	PTA・VAMや液晶ディスプレイ・電子材料用途の需要は低迷が継続。酢酸市況も引き続き軟調に推移する	PTA・VAMの需要回復の遅れを受け、酢酸の販売数量は対当初計画で減少 酢酸は、国内需要の落ち込みを輸出でカバーし数量を維持しながら、収益性の高い国内でのシェア拡大を狙う 酢酸誘導体は、需要変動の少ない食品包装向けインキ用途などへの拡販により、販売数量増と収益拡大を狙う
	繊維 フィルター	世界のたばこ生産本数は前年度から横這いを見込むも、アセテート・トウ需要は加熱式たばこの需要増により堅調に推移する見通し	アセテート・トウは、堅調な需要を受け、投資なき増産による拡販を計画通り進め、当初計画並みの販売数量を見込む
	電材・ コーティング 用原料	カプロラクトン誘導体は、ウレタン既存用途の需要は引き続き低調に推移し、エポキシ化合物の電子デバイス・ディスプレイ用途の需要も低迷が継続する見通し	カプロラクトン誘導体、エポキシ化合物ともに需要低迷の影響を受け、販売数量は対当初計画で減少見込み カプロラクトン誘導体は、大口顧客でのシェア拡大の取り組みに加え、注力市場である自動車用PPF※やEV向け接着剤などに開発リソースを集中し、さらなる拡販を狙う エポキシ化合物は、大口顧客でのシェア拡大に加え、OLED封止材やFRP用途など高付加価値領域での拡販を狙う
	コスメ	国内市場はインバウンド増加の影響もあり、回復傾向が継続。中国市場の回復は期初の想定よりも遅れる見通し	1,3-BGは、拡販を計画していた中国市場の需要が想定より低調に推移し、販売数量は対当初計画で減少見込み インバウンド増加による国内需要の回復を確実に取り込みながら、中国市場での大口顧客でのシェアアップ、欧米市場での工業用途向け拡販により挽回を狙う

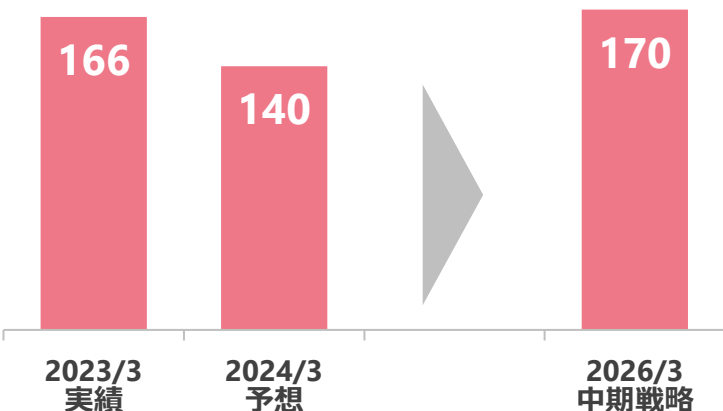
※PPF（Paint Protection Film）： 塗料保護フィルム

セグメント別 事業計画（2024年3月期 下期）

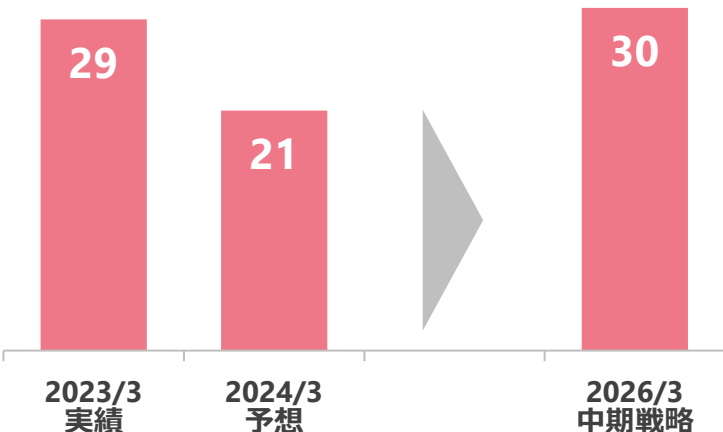
セグメント	主要市場	市場環境	当社の計画（対当初計画）
エンジニアリング プラスチック	自動車部品	グローバルの自動車生産台数は期初の想定を上回る見通しだが、中国市場における日系自動車メーカーの伸び悩みが見られる	自動車部品用途は顧客の在庫調整解消により回復が進むものの、電子デバイス用途の需要低迷の長期化などにより販売数量は対当初計画で減少
	電機・電子 ・精密機器	スマートフォンやパソコンなどの電子デバイス、家電、サーバーなど通信インフラ設備関連の生産は低調に推移する見通し。来期以降の需要回復を見込む（当初計画では3Qからの回復を想定）	上期に引き続き、POMのローエンドマーケットへの販売拡大、LCPのシェア奪還などの販売数量リカバリー策を実施 全製造拠点でコストダウンを徹底

メディカル・ヘルスケア

売上高 (億円)



EBITDA (億円)



◇ 事業環境

- キラル分離市場の堅調な伸びに加え、遺伝子医薬市場も拡大傾向
- 化粧品・健康食品はインバウンド需要が増加

◇ 通期業績予想達成のためのアクション

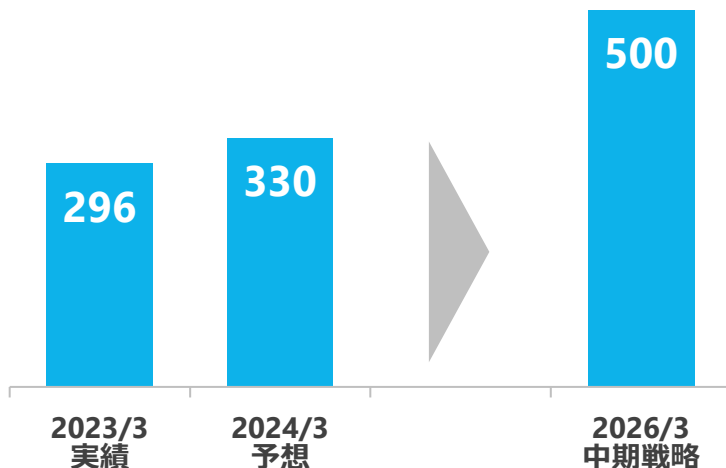
- 主力のキラルカラム・充填剤は海外向けの拡販に取り組むとともに、分析サービスや遺伝子ゲノミクス関連事業の成長も加速
- 化粧品原料・機能性食品素材は、戦略的パートナーとの協業を通じたマーケティング強化により拡販を推進

◇ 中期戦略達成、その後の成長に向けたアクション

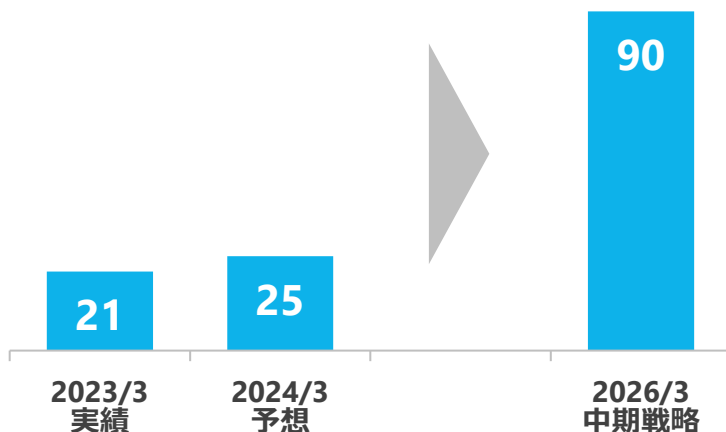
- 新会社ダイセルメディカル設立と米国で無針注射器事業を展開するPharmaJet社への出資により、当社製品の医療機器承認の加速、国内外での無針注射器市場の育成を図り、当社医療機器関連事業を推進
- 医療機器の事業化とともに、医療機器向けエンブラなど材料分野とのシナジーを加速
- 今後拡大するペプチド・核酸医薬向けの需要を取り込み、中分子医薬品向けのサービス事業開発を強化
- BELLOCEA（真球状酢酸セルロース）の欧州規制対応グレードの上市・事業拡大

スマート

売上高 (億円)



EBITDA (億円)



◇ 事業環境

- 足元では半導体やディスプレイの需要回復が遅れる一方、デジタル化の進展とコロナ明けの開発加速で、高機能素材へのニーズは増加傾向

◇ 通期業績予想達成のためのアクション

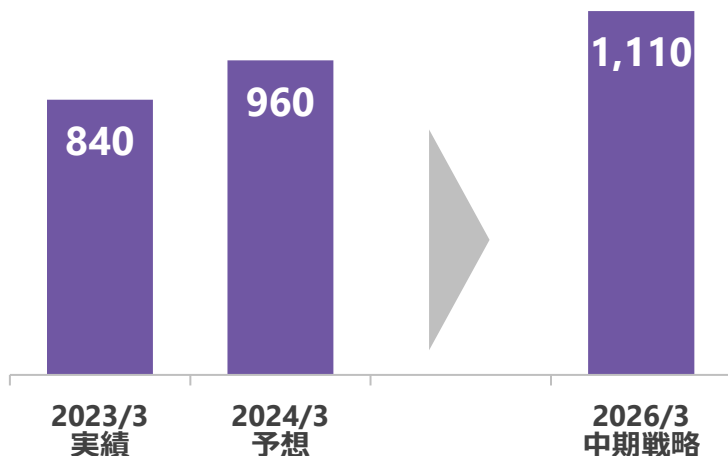
- TACは製法改善（ドープロ過）による品質改善、低グレードパルプ品の品質向上により競争力を強化し、国内外でのシェアを拡大
- 電材溶剤は最先端半導体で使われる高品質と安定供給を強みに、国内外の半導体用途やその他の用途開拓による拡販を通じて、増産設備の稼働向上、シェアを拡大
- 機能フィルムは、拡大する車載ディスプレイでの拡販やペン入力デバイスなど多様な機能で拡販。外注加工の取込み拡大、生産性向上によるコスト削減

◇ 中期戦略達成、その後の成長に向けたアクション

- ダイセルビヨンドのウェット・ドライコーティング技術を活用し、拡大が予想される車載調光サンルーフ用OCA（光学透明粘着フィルム）や導電フィルムなどの新製品を投入
- ウェハレベルレンズは、製造プロセス改善、重点顧客へのマーケティング・テクサ体制強化により事業を成長
- EUVレジスト材料、3D実装材料、有機半導体センサの採用拡大
- マイクロ流体デバイスプラントでレジスト材料の生産を実現し、環境対応・高品質・生産性など高い競争力で事業を拡大

セーフティ

売上高 (億円)



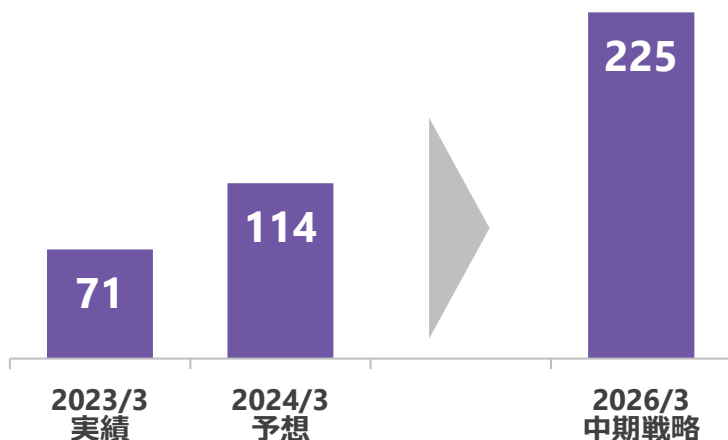
◇ 事業環境

- グローバルで自動車生産が回復傾向。中国では中国製EV販売が継続して好調であり、今後はグローバルでEV市場が拡大

◇ 通期業績予想達成のためのアクション

- 2023年10月に北米拠点の1つであるケンタッキー工場の稼働を停止。生産地統廃合を計画通り推進中であり、北米拠点は今下期に黒字化
- 各拠点にて継続したコストダウンを徹底するとともに、現地調達化による投資コスト抑制および生産ラインの自動化を進める

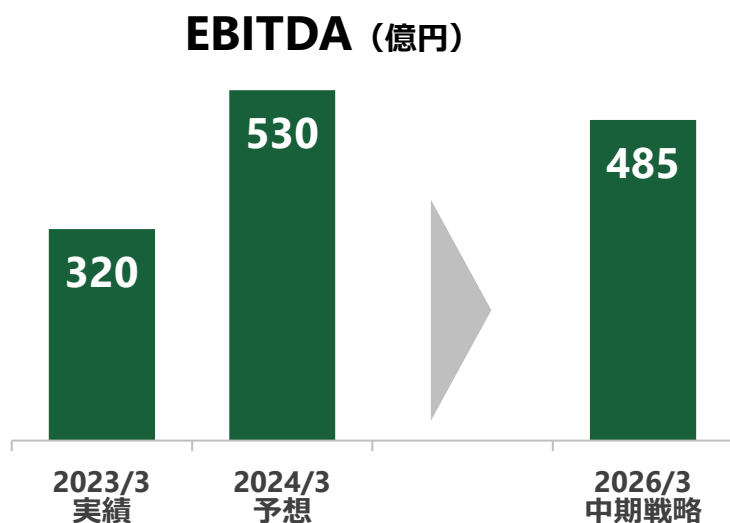
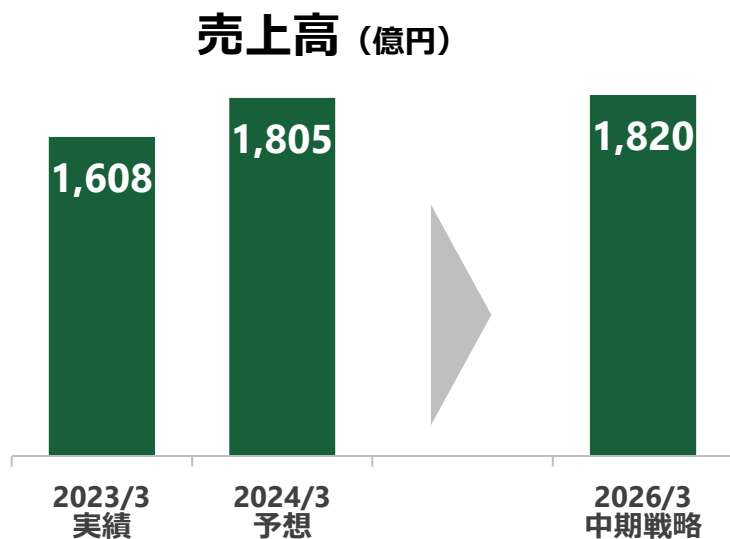
EBITDA (億円)



◇ 中期戦略達成、その後の成長に向けたアクション

- 2023年10月にインド拠点が生産開始。伸長するインドにおけるインフレータ市場の需要を確実に勝ち取るべく、日系のみならず外資、現地自動車メーカーとの折衝、連携を加速。シェア拡大を狙う
- 欧州EV向け電流遮断器を2025年3月期に量産開始。市場拡大が予想される欧州、中国地域のマーケティング体制を強化し新規受注獲得を推進。車載用だけではなく、顧客との共創による新事業創出にてソーラーパネル発電システム向けなど産業用へ用途拡大を加速
- 豊田合成株式会社様との協業深化で実現した、設計・建設期間を大幅に短縮してタイムリーな投資意思決定と製造原価の削減にも寄与するコストハーフラインによる競争力強化。加えて、各拠点での商品/設備開発機能強化により各国のニーズに沿った商品を迅速に提供

マテリアル



◇ 事業環境

- アセチルおよびケミカル事業は総じて需要が低調
- アセテート・トウは加熱式たばこ用途の成長を含め堅調。円安も追い風に

◇ 通期業績予想達成のためのアクション

- アセテート・トウは「投資なき増産」を進め堅調な需要に応じた拡販を推進
- カプロラクトン誘導體・エポキシ化合物の自動車向けなどの成長用途でのシェア拡大
- 1,3-BGは、インバウンド需要対応、中国化粧品市場におけるシェア拡大に取り組むとともに工業用途の拡販も強化

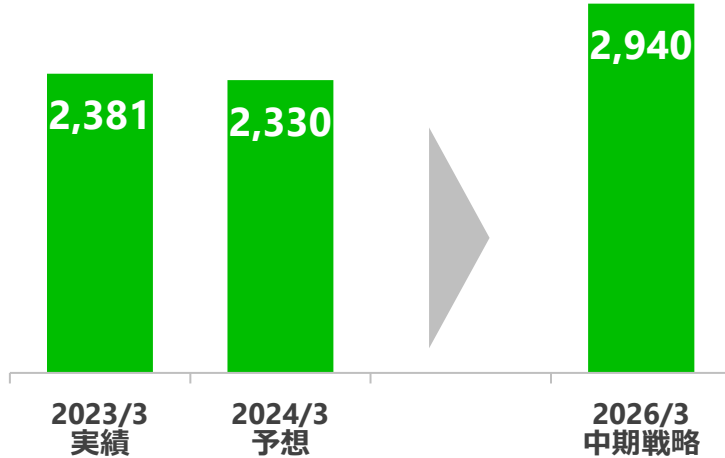
◇ 中期戦略達成、その後の成長に向けたアクション

- 2段解砕とドープロ過設備の導入により原料パルプの集約・汎用化を進め、棚卸資産の圧縮、物流コストの削減を推進。酢酸セルロースの競争力を強化するとともにアセットライトの推進にも寄与
- CAFBLO(酢酸セルロース樹脂)の用途拡大に向け、原料変更やプロセス改善などによるコストダウンを計画するとともに、アジア圏での協業先連携を構築しつつ環境意識の高い欧米への展開を推進
- 米中拠点のテクサ機能強化、国内開発拠点の機能提案力・素材開発力強化を進め、カプロラクトン誘導體・エポキシ化合物の高付加価値用途の開発・拡販を強化。生産設備では、精製工程を強化することで、カプロラクトン誘導體のさらなる品質強化を進めて、成長用途での拡販を加速

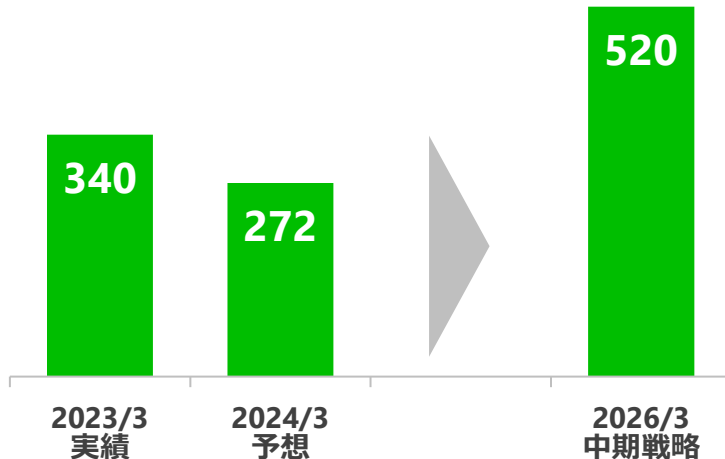
*2024/3予想から2026/3中期戦略へのEBITDA減少の主な要因は為替影響（前提：138円/USD→120円/USD）

エンジニアリングプラスチック

売上高 (億円)



EBITDA (億円)



◇ 事業環境

- ・ グローバルで自動車生産が回復。中国ではEVが大きく成長
- ・ 電子デバイス需要の減速

◇ 通期業績予想達成のためのアクション

- ・ 従来のスペックイン活動に加え、中国・インドを中心としたローエンドマーケットへの販売による短期的な販売数量の確保
- ・ グローバルの全拠点でコストダウンを徹底

◇ 中期戦略達成、その後の成長に向けたアクション

- ・ 増産投資案件の立ち上げ (POM・LCP・COC)
- ・ POM新規用途の開拓・マーケティング、テクニカルソリューション体制強化
 - ・ EV化による温度制御装置の構造変化 (低温化) を踏まえた新規用途開拓
 - ・ EV化による車内静音化ニーズの高まりを踏まえたPOM摺動性を活用した新規用途開拓
 - ・ 中国EV市場の顧客基盤構築に向けた中国国内のマーケティング・テクニカルソリューション体制の強化
- ・ LCPにおける、従来の主力領域であるコネクタ以外の用途拡大への注力
- ・ 高周波(5G/6G)対応アプリケーションに求められるLCPの誘電特性、耐熱性、寸法安定性を強化した競争優位な製品を開発し、シェアを拡大
- ・ 医療用や食品接触用途など、新規用途開発および拡販強化
- ・ 原料のバイオマス化およびリサイクル事業立ち上げなど環境対応強化
- ・ ダイセル式生産革新導入によるポリプラスチックグループ製造4拠点のバーチャルファクトリー化による最適生産化の実現

コーポレート部門の取り組み

◇ 中期戦略の経営指標ターゲット

- $ROE \geq ROIC \geq ROA > WACC$
- ROIC 10%以上、成長投資によるEBITDAの拡大

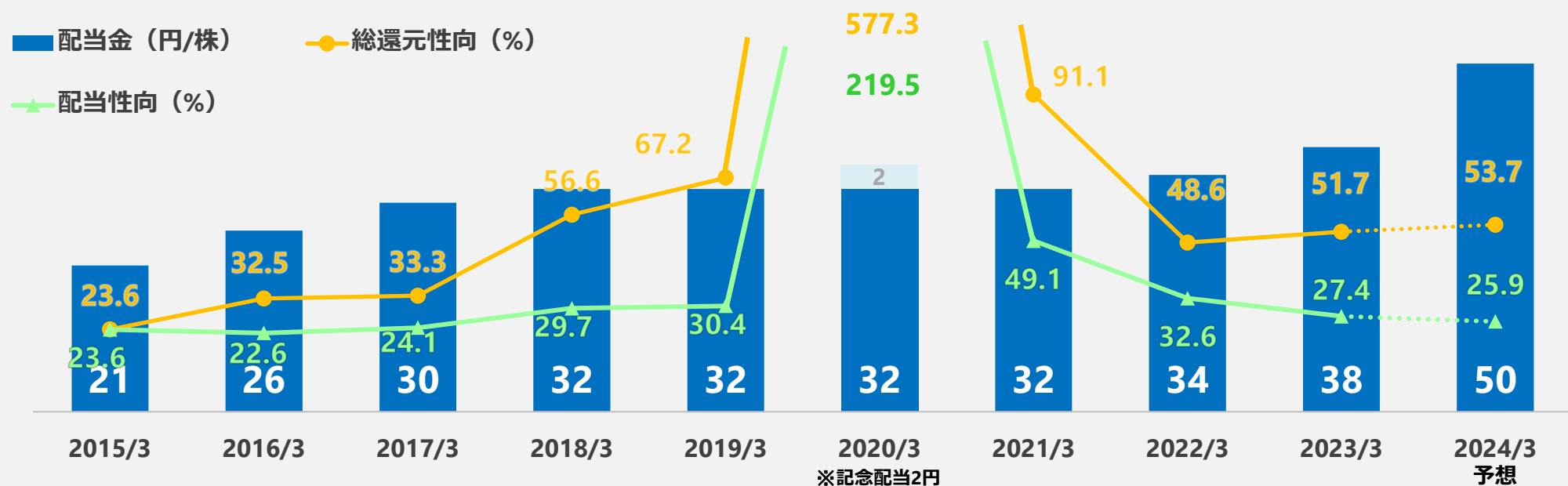
◇ 中期戦略ターゲット達成、持続的な成長に向けた取り組み

- 安全と品質を確かなものにする本部と企業倫理室の連携による、持続的な成長の礎となる「安全」「品質」「コンプライアンス」のグループ社員一人ひとりへの徹底
- 経営戦略本部とFP&Cグループ*の連携による全社最適視点からの資源配分、財務・資本政策の立案・実現
- ROIC、ROA向上を意識したバランスシートコントロール
 - 各SBU・工場と、経営戦略本部・生産本部・SCM本部の連携による、在庫削減に向けた課題抽出と取り組み
 - 酢酸セルロースの製法改善（2段解砕とドープろ過設備の導入）による原料品種削減、SCM本部による棚卸資産モニタリング、自律型生産システムによる最適生産計画の導出など
 - 政策保有株式削減など非事業資産の圧縮
- EBITDAの拡大につながるセイフティやエンジニアリングプラスチックなど成長事業投資案件の確実な遂行
 - 生産本部・エンジニアリングセンター・アセスメント本部の連携による安全、着実な投資計画の遂行
- コーポレート研究開発部門と各SBU開発グループの役割分担と連携による、新製品・新事業開発の加速
 - ファインセルロースを中心としたバイオマスプロダクト、マイクロ流体デバイス、無機有機複合材料など

EBITDAを源泉に総還元性向40%以上の還元を実施

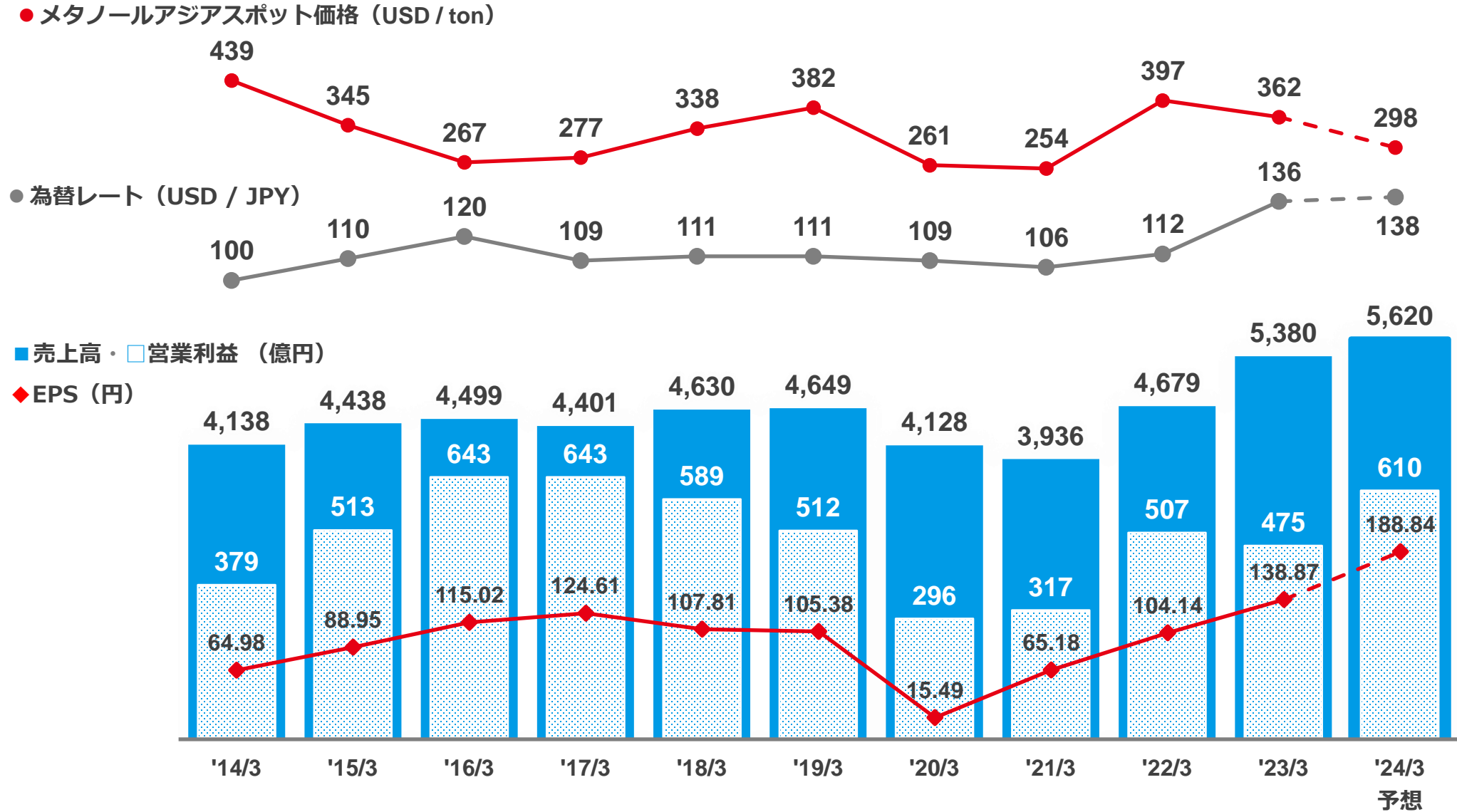
2024年3月期

- 中間配当 25円/株（対前回予想 3円増配、対前年度 7円増配）
- 期末配当予想 25円/株（対前回予想 3円増配、対前年度 5円増配）
- 年間配当予想 50円/株（対前回予想 6円増配、対前年度 12円増配）
- 150億円、1,300万株の自己株式取得を決定（取得期間：2023年11月～2024年3月）



Appendix

売上高・営業利益・EPSの推移



セグメント別 売上高・営業利益（四半期推移）

単位：億円

	売上高					
	2023/3				2024/3	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
メディカル・ヘルスケア	40	41	44	42	34	35
スマート	96	66	71	64	75	71
セイフティ	178	220	224	219	224	247
マテリアル	361	391	424	432	460	451
エンジニアリングプラスチック	587	648	595	550	503	584
その他事業	18	17	26	29	12	13
合 計	1,280	1,383	1,383	1,335	1,308	1,402

単位：億円

	営業利益					
	2023/3				2024/3	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
メディカル・ヘルスケア	4	4	6	△ 0	3	2
スマート	11	△ 8	△ 6	△ 4	△ 6	△ 5
セイフティ	△ 2	2	14	△ 9	△ 7	5
マテリアル	50	54	25	78	94	117
エンジニアリングプラスチック	66	79	64	44	7	54
その他事業	1	0	2	0	△ 0	2
合 計	130	130	105	109	91	175

※ 2023年3月期実績は、以下のセグメント変更を反映

・化粧品原料1,3BG（メディカル・ヘルスケア→マテリアル） ・新規投与デバイス研究開発機能（セイフティ→メディカル・ヘルスケア）

単位：億円

	2020/3 実績
セルロース	59
有機合成	220
合成樹脂	86
火工品	85
その他事業・全社	27
合 計	476

単位：億円

	2021/3 実績	2022/3 実績	2023/3 実績 (※1)	2023/3 実績 (※1・2)	2024/3 上期実績 (※1・2)	2024/3 予想 (※1・2)
メディカル・ヘルスケア	87	10	27	22	14	20
スマート	20	29	42	42	18	45
セイフティ	88	77	90	90	48	110
マテリアル	116	188	86	91	56	160
エンジニアリング プラスチック	71	74	306	306	201	510
その他事業・全社	14	30	12	12	2	5
合 計	396	408	563	563	339	850

※1 見直し後の全社費用配賦方法を反映しており、「その他事業・全社」の数値は「その他事業」のみの数値です。

※2 化粧品原料1,3-BGおよび新規投与デバイス研究開発機能のセグメント変更を反映した数値です。

単位：億円

	2020/3 実績
セルロース	75
有機合成	61
合成樹脂	60
火工品	73
その他事業・全社	21
合計	290

単位：億円

	2021/3 実績	2022/3 実績	2023/3 実績 (※1)	2023/3 実績 (※1・2)	2024/3 上期実績 (※1・2)	2024/3 予想 (※1・2)
メディカル・ヘルスケア	14	14	28	15	5	10
スマート	16	20	27	27	14	35
セイフティ	47	50	65	65	34	70
マテリアル	90	90	97	110	55	150
エンジニアリング プラスチック	69	70	86	86	39	80
その他事業・全社	22	25	6	6	3	5
合計	258	269	308	308	149	350

※1 見直し後の全社費用配賦方法を反映しており、「その他事業・全社」の数値は「その他事業」のみの数値です。

※2 化粧品原料1,3-BGおよび新規投与デバイス研究開発機能のセグメント変更を反映した数値です。

単位：億円

	2020/3 実績
セルロース	13
有機合成	40
合成樹脂	38
火工品	51
その他事業・全社	70
合計	213

単位：億円

	2021/3 実績	2022/3 実績	2023/3 実績 (※1)	2023/3 実績 (※1・2)	2024/3 上期実績 (※1・2)	2024/3 予想 (※1・2)
メディカル・ヘルスケア	21	19	22	28	13	26
スマート	27	36	42	42	21	37
セイフティ	51	56	63	57	30	55
マテリアル	16	15	28	28	20	40
エンジニアリング プラスチック	35	37	61	61	37	70
その他事業・全社	46	45	3	3	1	2
合計	195	207	219	219	121	230

※1 見直し後の全社費用配賦方法を反映しており、「その他事業・全社」の数値は「その他事業」のみの数値です。

※2 化粧品原料1,3-BGおよび新規投与デバイス研究開発機能のセグメント変更を反映した数値です。

2024年3月期通期業績予想

単位：億円

	2024/3 当初予想			2024/3 見直予想			増減
	上期予想	下期予想	年間	上期実績	下期予想	年間	
メディカル・ヘルスケア	65	70	135	69	71	140	+5
スマート	175	225	400	147	183	330	△ 70
セイフティ	425	475	900	471	489	960	+60
マテリアル	885	895	1,780	911	894	1,805	+25
エンジニアリングプラスチック	1,135	1,315	2,450	1,087	1,243	2,330	△ 120
その他事業	25	30	55	25	30	55	-
売上高	2,710	3,010	5,720	2,710	2,910	5,620	△ 100
メディカル・ヘルスケア	2	5	7	5	5	10	+3
スマート	0	5	5	△ 11	0	△ 11	△ 16
セイフティ	10	70	80	△ 1	44	43	△ 37
マテリアル	145	105	250	211	164	375	+125
エンジニアリングプラスチック	53	132	185	61	129	190	+5
その他事業	0	3	3	1	2	3	-
営業利益	210	320	530	266	344	610	+80
経常利益	215	335	550	307	348	655	+105
親会社株主に帰属する当期純利益	150	290	440	298	242	540	+100
(参考) 為替レート USD/JPY	125	125	125	141	135	138	

		2023/3 実績		2024/3 計画		2024/3 実績+見直計画	
		上期実績	下期実績	上期計画	下期計画	上期実績	下期見直計画
為替レート (USD/JPY)		134	137	125	125	141	135
原料	メタノール アジアスポット価格 (USD/ton)	374	349	380	380	295	300
	原油 ドバイ (USD/bbl)	102	83	90	90	82	85
	国産ナフサ (円/kl)	83,750	69,500	68,000	68,000	67,750※	67,000

※ 2023年10月時点の予想値

予測に関する注意事項

- 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- ご使用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。

本資料の著作権は株式会社ダイセルに帰属します。

いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。